

- CSF（豚コレラ）、ASF（アフリカ豚コレラ）対策における今後の国の対応について …… 1
- 鳥インフルエンザウイルスの侵入を防ぎましょう …… 2
- ワクチン接種で愛馬を鼻肺炎から守りましょう！ …… 3
- 鼻腔内投与型ワクチンで呼吸器病対策を！ …… 4

CSF（豚コレラ）、ASF（アフリカ豚コレラ）対策における 今後の国の対応について

中小家畜課中家畜担当

豚コレラはCSF、アフリカ豚コレラはASFと呼称及び表記が変更され、以下の通り
国家戦略が示されましたので、紹介します。

➤ 予防的 CSF ワクチンの接種開始

野生いのししにおけるCSF感染状況等から豚への感染リスクの高い12県をワクチン接種推奨地域に指定し、**10月25日から接種開始**。

➤ 防護柵の設置推進

今後、飼養衛生管理基準が改正され、**農場内への野生動物侵入防止対策が義務化**。「アフリカ豚コレラ侵入防止緊急支援事業」等（補助率：国1/2+県1/4）により、防護柵の設置を推進。

➤ 水際検疫の強化

11月15日現在、海外からの旅行者から摘発した肉製品からの **ASF ウイルス遺伝子検出が81例**。

肉製品の持込に対する**家畜防疫官の権限を強化**し（旅行者の荷物開封確認等の法的根拠を付け）、**検疫探知犬を増頭（H30：34頭→R1：53頭→R2：140頭）**する予定。

➤ 予防的殺処分

現在ワクチンがないASFが発生した場合、**周辺の農場も含めて殺処分**できるよう家畜伝染病予防法を改正する意向。（韓国では3km以内で実施）



摘発された肉製品



動物検疫所 HP より

鳥インフルエンザウイルスの侵入を防ぎましょう！

中小家畜課小家畜担当

1 海外から汚染畜産物が持ち込まれています！

昨年度から国内で発生が続く CSF のそもそもの発生原因は、疫学調査の結果等から、**ウイルスに汚染された豚肉製品が旅行者によって海外から手荷物として持ち込まれ、不適切に廃棄されて、野生イノシシ群にウイルスが侵入し、それを介して農場に伝播した可能性が高い**と考えられています。

鶏肉においても、持ち込まれた畜産物からウイルスが分離される事例が毎年複数発生しています。ラグビーワールドカップや東京オリンピック等のイベントに伴い、来日外国人数は年々増加しています。**渡り鳥だけでなく、人や物も病原体の重要な伝播要因となることを改めて意識**しましょう。

調査時期	搭載国	畜種	分離ウイルス(株数) (赤字はHPAIウイルス)
平成27年度	中国	あひる	鳥インフルエンザH9N2(2)
			鳥インフルエンザH1N2(1)
		鶏	鳥インフルエンザH5N6(1)
	台湾	鶏	鳥インフルエンザH9N2(1)
			鳥インフルエンザH5N1(1)
フィリピン	鶏	鳥インフルエンザH5N6(1) ニューカッスル病(1)	
平成28年度	中国	あひる	鳥インフルエンザH7N9(1)
	ベトナム	鶏	ニューカッスル病(1)
	中国		鳥インフルエンザH9N2(1)
ベトナム	鶏	鳥インフルエンザH9N2(2)	
平成29年度	中国	あひる	鳥インフルエンザH7N9(2)
	台湾	鶏	鳥インフルエンザH5N1(1) 鳥インフルエンザH6N1(1)
平成30年度	中国	あひる	鳥インフルエンザH7N3(1) 鳥インフルエンザH5N6(1)
	ベトナム	鶏	鳥インフルエンザH5N2(1) 鳥インフルエンザH9N2(1)

持ち込みできなかった未加熱畜産物からのウイルス分離状況（農林水産省動物検疫所HPより抜粋）

2 飼養衛生管理基準の遵守状況の確認巡回（鶏・中間結果）

CSF の発生を受け、全畜種において飼養衛生管理基準の項目がより厳格化されました。10月28日現在で、管内全 148 戸（肉用鶏 107 戸、採卵鶏 28 戸、採卵及び肉用種鶏 11 戸、その他 2 戸）の巡回確認が終了し、**下記の不備及び改善を要する項目が確認**されています。複数項目が該当した農場もありました。

- 鶏舎の屋根や梁、壁の破損や隙間 68 戸
- 鶏舎へのネズミ侵入対策の不徹底（鶏舎周辺の片付け、草刈、殺鼠剤） 46 戸
- 鶏舎への防鳥ネット等の設置や修繕の不備 35 戸
- 踏み込み消毒槽等の鶏舎長靴の消毒不備 25 戸
- 車両消毒の不備（消毒設備の消毒液の未補充、消石灰帯が短い） 19 戸
- 衛生管理区域の設定や境界の明示の不備 14 戸
- 入場者記録の作成及び項目の不備 9 戸
- 埋却地の面積不足または伐採や整地が必要 7 戸
- 鶏糞ボイラーや鶏糞置き場への野生動物侵入防止対策の不徹底 6 戸
- 記録の作成保管の不備（鶏舎消毒、車両消毒、異常鶏、共有資材等） 5 戸
- 鶏舎内長靴の鶏舎間での共用 3 戸

※戸数は該当農場の延べ戸数

ワクチン接種で愛馬を馬鼻肺炎から守りましょう！

大家畜課防疫担当

平成30年1～3月、管内で馬鼻肺炎による流産が2戸6頭で発生しました。
本病による流産はワクチンで予防できるので、この病気の理解を深め、しっかりと予防対策に努めましょう！

1 原因

ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）及び4型（EHV-4）

2 症状

妊娠馬の流産（妊娠後期）や若齢馬の発熱や膿性鼻汁を主な症状とする呼吸器病等を引き起こし、まれに顔面麻痺などの神経症状も認めることもあります。



【流産胎子】

3 感染様式

鼻汁、流産胎子及び羊水中のウイルスによる**飛沫感染**や汚染された作業者の手指や衣服を介した**接触感染**があります。一度感染するとウイルスはリンパ節や神経に**生涯に渡り潜伏**し、**再発症する恐れ**があります。

4 予防

(1) 飼養管理

- ① 導入馬や育成馬がウイルスを持ち込む可能性があるため、既存の妊娠馬とは隔離して飼いましょう。
- ② **妊娠後期はストレスを与えない飼養管理**をしましょう。
- ③ 厩舎の出入口に消毒用スプレーや踏込み消毒槽を設置し、手指や長靴を消毒し、**厩舎を清潔**に保ちましょう。



敷料の密閉・消毒

(2) ワクチン接種

生ワクチンと不活化ワクチンがありますが、いずれも**複数回の接種**が必要です。

1回目：生ワクチンは妊娠6～8か月、不活化ワクチンは妊娠6～7か月

2回目：1回目接種の4週間後

不活化ワクチンは、3回目以降は1～2か月ごとの追加接種が望めます。

(3) 助成措置

競走馬以外の繁殖牝馬を対象に、生ワクチンは2回、不活化ワクチンは3回まで、**接種費用の1/2**を助成する制度（実施主体：岩手県畜産協会）がありますので、ご相談ください。

5 万が一、流産が発生した場合

本病は、**届出伝染病**です。流産が続いた場合は、まずかかりつけの獣医師に連絡願います。診断が確定するまでは、**①流産馬を隔離、②流産胎子、胎盤、敷料等を密封、③流産場所を消毒**する。（ウイルスは4℃で2週間以上生存）しましょう。万が一、馬鼻肺炎と診断された場合は、発生から2週間程度の移動を自粛し、再発防止のため飼養管理を徹底しましょう。



消毒薬の一例：
推奨消毒濃度 500 倍

鼻腔内投与型ワクチンで呼吸器病対策を！

県南家畜衛生推進協議会

季節が冬に向かい、これから子牛等が呼吸器感染症にかかりやすい時期になりました。近年、鼻腔内に接種して、鼻腔粘膜面でインターフェロンの産生を誘導し、非特異的（幅広く）に病原体の侵入を防御するワクチンが販売され、効果が証明されています。

このワクチンは、ストレスがかかる前（導入、輸送、群編成）や牛群での感染が急激に広がってきたときに緊急予防対策として投与することで効果が期待できます。呼吸器感染症が多発する前に免疫を付与し、牛を守りましょう。



動物用医薬品 要指示
ティースバイ2 TSV-2
 牛伝染性鼻気炎・牛パラインフルエンザ混合性ワクチン(シード)



[県内での実証事例]

洋野町の黒毛和種繁殖農場では、本ワクチンの利用により、呼吸器病発生割合が前年同時期と比較して大幅に低下し、診療費が83万円削減されました。

(発生率 40.5→6.4% 診療頭数 15→3頭へ)

	呼吸器病 発生率	呼吸器病 発症平均月齢	平均 治療回数	備考
平成 29 年度 春季～夏季	36.4% (16/44 頭)	5.3	4.0	
平成 29 年度 秋季～冬季	40.5% (15/37 頭)	4.8	11.7	
平成 30 年度 春季～夏季	36.2% (17/47 頭)	5.6	4.2	H30.9.27 実証開始
平成 30 年度 秋季～冬季	6.4% (3/47 頭)	5.0	3.6	

久慈地方農業農村活性化推進協議会事業成績

県南家畜衛生推進協議会では、鼻腔内投与型ワクチン「ティースバイ2」を1,540円/頭（技術料390円支援込み）で取扱いを始めました。

獣医師又は家畜保健衛生所にご相談ください。

(TSV2は、牛パラインフルエンザ3型ウイルス、牛伝染性鼻気管炎ウイルスの2価ですが、牛RSウイルスが付加された3価ワクチン(TSV-3)が承認され、今後販売される予定です。)